



Data

監督：岸建太郎

出演：岸叶会／江間直子／岸カヲル
／フィリップ・エマール／皆
木ヒューゴ

■ ■ ショートコメント ■ ■

◆ 第15回大阪アジア映画祭のパンフレットから引用すると、次のとおりだ。

■ 監督 岸建太郎	■ Director KISHI Kentaro
■ プロデューサー トウイトー桃子	■ Producer TWITO Momoko
■ 脚本 岸建太郎	■ Screenplay KISHI Kentaro
■ 撮影 岸建太郎 末松祐紀	■ Cinematography KISHI Kentaro SUEMATSU Yuki
■ 音楽 エルンスト・レイスグル	■ Music Ernst REIJSEGER
■ サウンドデザイン 落合諒馬	■ Sound Desing OCHIAI Ryoma
■ 出演 岸 叶会 江間 直子 岸カヲル フィリップ・エマール 皆木ヒューゴ	■ Cast KISHI Kanae EMA Naoko KISHI Kaworu Philippe AYMARD MINAKI Hugo



岸建太朗 監督

Director: KISHI Kentaro

1973年生まれ。2002年より自主映画やCMなどの監督を始め、2010年に『未来の記録』がトリノ映画祭などで上映される。近年は撮影監督としても『僕の帰る場所』、『解放区』、『Noise』など、数々の作品を手がける。『種をまく人』では主演と撮影監督を兼任し、ロサンゼルス・アジア太平洋映画祭で最優秀主演男優賞を獲得。2012年より長編映画『母の肖像』を制作中。

父ケンタロウの亡き後、一人娘のカナエ(6)は祖母カヲル(73)に大事に育てられてきた。お盆のある日、母モモコ(39)がアメリカ人のアダム(50)とその息子ジョセフ(10)を連れて久しぶりに帰国する。モモコは娘との再会を喜び「アメリカに移住して一緒に暮らそう」と伝えるが、カナエは断固拒否し心を閉ざしてしまう。カナエの心を和らげようと、あの手この手を使い懸命に働きかけるアダム。カナエは次第に笑顔を取り戻し、その日の夕食は笑いの絶えぬ楽しいものとなる。しかしモモコは、一人暗い表情を浮かべていた。

モモコはカヲルに伝えるべきことがあり、悩んでいた。一つはカナエを連れアメリカに移住するという事。もう一つは、ケンタロウの遺品である「カメラとパスポート」をカヲルに見せることだった。「辛いかも知れないが、逃げずに向き合うべきだ」と、モモコに決断を迫るアダム。翌日、モモコとアダムは海にいた。モモコは、アブラハムの墓で見た不思議な光景について語り始める。

本作はInternational Festival Signs of the Night(イタリア・ウルビーノ)で「SIGNS AWARD」を受賞、ビルバオ国際ドキュメンタリー・短編映画祭(スペイン)でも上映された。

2020(令和2)年3月18日記